

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校

地域社会とのつながりや人との出会い、多様な学びを通じて、主体的に学び、自らの人生を切り拓くたくましさを育み、地域社会を支える人づくりをめざす。

【育てたい力】

- 多様な価値観を尊重し、違いを豊かさにして、協働できる力
- 自分の考えを的確に人に伝えたり、傾聴できるコミュニケーション力
- 地域や社会に関心を持ち、参画、貢献しようとする意欲と実行力
- 豊かな人権感覚・人権意識

2 中期的目標

1. 新たなステージへの深化

「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」とする「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コースの再編に取り組む。

将来構想検討委員会、カリキュラム検討委員会、専門コース委員会を開催し、普通科専門コースにおけるカリキュラム・教育内容の充実に取り組む。新たな学校像が地域の中学校や教育関係者、中学生、保護者に共有されるよう、丁寧に広範な広報活動に取り組む。

2. 確かな学力の育成と進路実現

ア 授業公開、研修、授業アンケート（年2回）、研究授業を連動させ、年間の授業改善サイクルを充実させる。

ユニバーサルデザインを意識した教育環境の整備、わかりやすい授業づくりに取り組む。

「主体的・対話的な深い学び」を追求し、真摯に授業改善に取り組む。

教員のニーズに応じた研修の充実を図る。

教職員の「専門性」の向上「同僚性」の発揮を促進し、「ストレス」の少ない「働きやすい」「働きがいがある」職場づくりに取り組む。

イ 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成

生徒の興味や関心を喚起し、社会と繋がる意識を育てる課題解決型、探究型の「思考力」「判断力」を育成する授業づくりに取り組む。

普通科専門コースにおける「発表」の機会を「総合的な探究の時間」（2年次）に実施するとともに、3年次の芸術鑑賞や文化祭での発表の機会を通して、「表現力」の育成に努める。

「総合的な探究の時間」やLHR、学校行事を通じて、「自己・他者・社会の在り方⇒生き方・進路に関連付ける」＝「学びに向かう力」や「協働できる力」を育てる。

ウ 学年の学力生活実態調査結果や定期考査の振り返りを活用し、進路への意識づけ、学習の充実を図る。

学年の進路指導部、学習指導部の連携のもと、早い時期から進路に向けた適切な学習指導を継続的に行う。

「進路実現満足度100%の学校」をスローガンに、進路について考える機会を増やし、丁寧な進路指導・学習支援を通じて、生徒一人ひとりとって満足度の高い進路実現をめざす。

生徒向け学校教育自己診断「系・コースや授業は将来の役に立つ」の項目について90%(平成29年度87.6%,平成30年度84.7%,令和元年度85.4%)をめざし、令和4年度までその水準を維持する。

3. 豊かな人権感覚・人権意識の醸成

ア 学校行事やクラス活動における生徒相互の関わりや協働性を重視し、自尊感情や生徒相互の信頼感を醸成する。

イ 生徒の実態に即した課題を設定し、当事者の話を聴くなど、共感に基づく人権学習を通じて、豊かな人権感覚を醸成する。

ウ 実習や体験、発表、地域活動への参加等を通じて自己有用感や自尊感情を醸成し、道徳感や公共心、ボランティア等社会貢献への意識を育てるとともに、よりよい社会の創り手となる意欲や行動力を育成する。

4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実

ア 人権教育推進委員会、教育相談委員会、支援教育コーディネーターの連携を密にし、校内の教育相談・支援体制の充実を図る。

高校生活支援カードを有効に活用し、支援の必要な生徒の早期発見、実態把握に努め、必要な支援体制をつくる。

状況把握、経過観察、情報共有に努める。

必要に応じてケース会議を適宜開催し、外部機関や専門家とも連携して、生徒理解を深め、支援の充実に努める。

イ 共生推進教室の取組みの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

共生推進教室で学ぶ生徒への適切な指導、必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。

共生推進教室で学ぶ生徒との日常的な交流を通じて、全ての生徒に障がいのある人への理解、共生の意識を育む。

3年卒業時、共生推進教室で学ぶ生徒の就労100%をめざす。(平成29年度0%,平成30年度66.6%,令和元年度100%)

5. 規範意識の醸成と自主性・主体性の育成

ア 遅刻、頭髪、服装、原付、あいさつ、清掃等の指導等、基本的生活習慣やマナーの確立を通じて、社会性を育てる。

イ 部活動加入を積極的に奨励するとともに、生徒会・委員会活動を活性化し、教育活動のあらゆる機会において生徒の自主性・主体性を引き出す。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年実施分] 数値はR2年度の肯定的評価 <【 】内はR1年度の肯定的評価>	学校運営協議会からの意見
授業改善 「学校は授業改善に積極的に取り組んでいる」 生徒 73.8% 【69.5%】 1年 82.2% 【81.5%】 2年 64.3% 【66.7%】 3年 74.8% 【62.4%】 「授業はわかりやすい。学習意欲が高まる。」 生徒 59.8% 【61.4%】 1年 63.6% 【59.6%】 2年 48.9% 【60.9%】 3年 66.8% 【63.8%】 「授業は静か。勉強に集中できる。」 生徒 77.2% 【66.5%】 1年 82.4% 【71.4%】 2年 72.3% 【69.6%】 3年 76.6% 【58.4%】	第1回 令和2年7月18日 <意見交換> ●これまでの地域の取組み、社会貢献活動を教えて欲しい。 ○近隣の幼稚園・保育園との交流、クラブ員中心での年に1度(昨年度より)のクリーン活動、また授業の地域コミュニケーションでの活動など。その他、秋祭り、部活動の一環で近隣施設でのパフォーマンスがある。 ●6月の分散登校までの休校期間、生徒にどのようにアプローチしていたか。 ○課題を送り、気になる生徒には個別に連絡をしていた。 ●グループウェアとは何か。 ○IT企業が無償で提供しているサービス。パソコン、スマートフォン(利用制限有り)などで使用できる。 ●スマートフォンを所有していない生徒について、どのような配慮があるのか。 ○生徒全員にアンケートを実施し、実態を把握。結果、スマートフォンを所有していなくても、パソコンを使用出来る環境にある生徒が大半である事が分かった。 ●収入が減少した家庭もあるはずなので、注意して生徒を見ていて欲しい。 ○家計急変による奨学金や生活保護世帯や非課税世帯には、それに加え給付金がある。
学校の満足度 「金剛高校に満足している。」 生徒 85.0% 【82.0%】 1年 90.5% 【82.5%】 2年 74.5% 【82.7%】 3年 89.4% 【80.8%】 「系・コースや授業は将来の役に立つと思う。」 生徒 88.9% 【85.4%】 1年 96.0% 【87.1%】 3年 83.7% 【86.3%】 3年 86.7% 【83.0%】	
安全で安心な居場所、クラスづくり 「クラスやクラブは一人ひとりが大事にされ話しやすい。」 生徒 84.7% 【78.9%】 1年 83.5% 【79.8%】 2年 82.7% 【79.7%】 3年 88.1% 【77.1%】 「先生は問題を見逃さず親身に相談に応じてくれる。」	

府立金剛高等学校

生徒	80.4%	【72.8%】	1年	85.6%	【78.2%】	
2年	72.4%	【65.3%】	3年	83.0%	【74.5%】	
人権問題への理解、社会的課題への関心						
「人権を学ぶ機会と人権問題への理解。」						
生徒	89.5%	【89.9%】	1年	98.7%	【93.1%】	
2年	79.5%	【88.0%】	3年	88.9%	【88.5%】	
「総合等での新しい社会的課題を学ぶ機会があった。」						
生徒	80.1%	【81.5%】	1年	82.5%	【80.0%】	
2年	68.9%	【80.9%】	3年	87.5%	【83.4%】	
「HRや発見（総合）で生き方や将来を考える機会があった。」						
生徒	90.8%	【90.1%】	1年	97.3%	【93.4%】	
2年	87.1%	【88.8%】	3年	87.5%	【87.7%】	
☆3年間の人権意識の変化を比較した「人権意識調査」（3年）						
「人権に関心を持っている。」						
3年次	84.7%	【77.3%】	←	1年次	73.9%	【67.5%】
「自分を大切にす気持ちは高まった。」						
3年次	77.5%	【67.3%】	←	1年次	74.7%	【72.0%】
「人間関係の大切さを学んだ。」						
3年次	92.7%	【88.8%】	←	1年次	95.4%	【96.7%】
「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」						
○『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』						
3年次	41.9%	【44.8%】	←	1年次	49.7%	【44.9%】
○『何もせずに黙っている。』						
3年次	15.2%	【16.3%】	←	1年次	17.0%	【13.6%】
進路指導						
「進路について学校は必要な情報や機会を提供している。」						
生徒	92.4%	【91.4%】	1年	93.7%	【93.2%】	
2年	89.6%	【88.0%】	3年	93.7%	【93.0%】	
「進路相談やHRなどで熱心に進路指導している。」						
生徒	82.4%	【77.1%】	1年	85.6%	【71.4%】	
2年	74.5%	【74.7%】	3年	86.5%	【84.1%】	
生徒指導						
「学校生活全体の指導は適切である。」						
生徒	78.4%	【75.1%】	1年	84.2%	【83.9%】	
2年	74.6%	【69.1%】	3年	76.3%	【72.3%】	
「遅刻、頭髮、服装、原付等の指導は適切である。」						
生徒	64.0%	【60.6%】	1年	68.3%	【70.2%】	
2年	61.0%	【53.3%】	3年	62.7%	【59.3%】	
学校行事・部活動・生徒会						
「学校行事（体育祭・文化祭・修学旅行など）は楽しく行えるよう工夫」						
92.6%【81.1%】						
「学校は部活動に積極的に取り組んでいる」81.3%【79.3%】						
「生徒会・委員会活動は活発である」76.4%【72.8%】						
<結果と分析>						
普通科総合選択制から普通科専門コース制への再編整備の過渡期、カリキュラムの混在、人員削減の中で如何にして、金剛高校の特長を堅持しながら、教育活動の充実及び今後に向けての展望を切り開くかが、大きな課題であった。今年度から3学年ともに普通科専門コースになり、新たなスタートの年となった。						
今年度、最重点課題として授業改善。重点課題として3点、①新カリのスタートに合わせた現行カリキュラムの改編、②安全安心なクラス、居場所、仲間づくり、③自主性・主体性の育成とした。						
学校教育自己診断の結果から、「分かりやすい授業」の項目以外は、授業改善関係の項目の肯定的回答が上昇した。その他の、学校の満足度、安全安心な居場所・クラスづくり、進路指導、生徒指導、学校行事・自主活動など、全体としては昨年度より、数値的に上昇している。						
ただし、本校の核となる人権問題の学習や総合的な学習の時間については、臨時休業によって時間の確保が困難となり、数値的には下降している。また、本校が大切にしている地域連携についても、感染防止のために、中止となり、数値が下降しているが、今後は状況を見ながら、復活させていきたい。						
総じて、今年度はコロナ禍により、教育活動において様々な制限・制約があった。しかし、本校はピンチに屈することなく、制限・制約の中で何が出来るかを考え、ポジティブに行動できた。困難な状況において、生徒たちの持つポテンシャルを引き出した本校の教職員集団の底力が大いに発揮されたものとする。ピンチをチャンスに変えてコロナ禍に立ち向かえた今年度は、金剛高校の今後を考える上で大きな意義のあるものとなった。						

- 金剛高校のカリキュラム編成の特徴を教えて欲しい。
- 主体的な学びが課題意識。R4年度新カリキュラムと同時に現行のものも改編する予定。今年中に決める。
- 新型コロナウイルスに生徒が罹患した場合、人権を意識したマニュアルはあるのか。
- 大阪府のガイドラインに従う。
- 約2ヶ月は、オンライン上の学習のみであった。金剛高校生も学力で停滞はあるか。
- 現段階で一生懸命勉強しても、3月時点で平常時と同程度到達できるのかは未確定。
- 教科ブログや、最近は動画も配信をしている。確認すると60回ほど再生されていた。一部の生徒は、意識の中で勉強しなくてはと思っている。
- 生徒が息切れを起こさないか、また教員の負担の増加も心配である。
- 生徒自身がモチベーションを上げるのが大切。生徒教員の疲弊を防ぐために、バランスを取りながら、物事を進めて行きたい。
- 配布資料の中で、1、2年生の人数が減少している事が気になる。
- 転学する生徒が各学年3人程いる。集団生活や全日通学制のスタイルが苦手など。
- 経済的な理由で無いと知り安心した。

第2回 令和2年10月17日

<意見交換>

- 共生推進教室の1年生の夏の実習が中止になったが様子はどうか？
- 7月に予定していた職場体験が秋に延期になったが、その分1月に5日間の体験を調整している。3人とも、順調に学校生活を過ごせている。
- 来年度の体育祭・文化祭はどのように考えているか。また今年充実した要因は。
- 生徒を教員が声かけをしてせつづく事で、良いものが出来たと思う。また、劇の練習が例年よりも1回増えた事も良い方向に行ったので、来年も同じように出来ればと思う。
- 1年生は大人しいとの話だが、実情はどうであるか。
- 教員はしっかり生徒の状況を把握している。昔は学年が上がるごとにだらける事があったが、今は“憧れの先輩になりなさい”と生徒に話しており、実際に力がついている。
- 授業をどのような計画で進めているのか。
- 授業日数確保は指示されているので、土曜授業や夏冬の休みの短縮をして対応している。授業時間数は、例年より少ない。教科の教員が考えながら、授業を進めている。
- 学校の授業の中で新型コロナウイルスについて話し合う時間を持っているのか。
- なかなか取れていない。ただし、来年の修学旅行場所の東北は震災10年目である。震災に関する学習や貧困学習などには取り組む予定である。
- 新型コロナウイルスに関することは授業でなくても、生徒たちに話す時間が必要なのではないか。
- コロナ差別は人権問題で、教育庁からの指示を教員には文書で配っている。生徒も分かってくれている。金剛高等学校は今のところ陽性者はいないが、正しく恐れる事が必要。
- 部活は新型コロナウイルス流行前後で違いはあるのか。
- クラブにもよるが、例えば剣道部は面の中にシールドを着け、活動後は手洗いをしている。金剛高等学校は全ての部活が活動している。
- 新型コロナウイルス関連の判断基準は何か。
- 府からのガイドラインがあるが、最終判断は学校にある。
- 3年生の進路を心配している。大きな変化はあったのか。
- 大学入試は厳しいが、生徒は進路に相談してくれている。今年は思ったより順調である。）

第3回 令和3年2月6日

<意見交換>

- 大変な一年で、教員もストレスが多かったと思う。
- 新型コロナウイルスで生徒の家庭に影響はあったか。
- コロナによる経済的困窮は、金剛高等学校では今のところ無い。しかし、スクールカウンセラーと面談をしている生徒や保護者がとても増えていて、カウンセリングの時間を取る事に苦心している。生徒の心の中には何かあるのかもしれない。
- 2年生の満足度が低い。コロナが収まったら、地域連携を再開し、生徒が多様性に触れあって欲しい。
- アンケートを取ったのが年末であった。その後、修学旅行中止に伴う学年行事などがあったので、アンケート結果が変わるかもしれない。学年行事開催後、お礼を言いに来る生徒もおり、まだまだ伸びる学年だと思っている。生徒から何か訴えが起きた時にきちんとリアクションする事を今後も大事にしたい。
- 憧れの先輩になるような、例えばパラリンピックなどスポーツで活躍している方などを生徒に紹介したら良いのではないかと目標が出来るように思う。
- 授業改善が重要課題で、肯定的な回答の数値も上がってきているとの事だが、今の基準に甘んじるのではなく、70～75%ほどを目標にして欲しい。また、アンケート結果について、同じ教師陣で年度によって差が出るのはどのような要因があるのか。改善のためにどのような対策を講じているのか。そして、縦横の繋がりを大切にして欲しい。
- 対策を立てなければ、同じ事の繰り返しであり、そこは特定の学年だけではなく取り組んでいきたい。2年生授業内でトラブルがあり、授業が分からないと生徒が訴えてきた。

府立金剛高等学校

	<p>しかし、その教科だけに責任を取らせるという事は間違いと思っている。校長の授業見学も行い、教員同士で授業見学も推奨している。</p> <p>○授業見学も、校長が各教員につき最低2回、多い場合は7,8回ほど行った。教員もコロナ対応で一杯一杯であり、申し訳ないと思っている。今後はもっとやって行きたい。</p> <p>●2年生の修学旅行が中止になったが、3年で行う事は無理なのか。</p> <p>○日程によるものと、予定を立てたとしても新型コロナウイルスにより見通しが立たない。中止になったが、モヤモヤするより、遠足やクラスマッチなど出来る事を開催したい。</p> <p>●校門前で送迎の車が駐停車して問題になっていたが、改善したか？</p> <p>○苦情は来ていないが、大人子ども関係なく、マナーの問題で『まあ、ええやん』ではいけないと思っている。</p> <p>●生徒、保護者のモラルもあるが、適切な指導にも生徒の考えと教員の考えに差がある。</p> <p>○教員は良かれと思いやっているが、生徒には伝わっておらず、理解されていない。指導前に全体としての基準を提示しているが、生徒や保護者からすると厳しく映っている。数値として改善していくだけではなく、生徒、保護者、教師の三者の差を埋めなければならない。</p> <p>●私の先輩に金剛高等学校の1期生がいる。その方はボイコットや教師と衝突した事もあったらしい。指導に対して生徒が不公平感を持たないために、どうフォローしているか</p> <p>○なぜその指導が必要なのかなど、丁寧に生徒指導を行っている。ただし、生徒全員にはうまく伝わらず、それがアンケート結果に表れているのかもしれない。金剛高等学校に対する、匿名の通報や名前を名乗っての苦情の訴えはあまりなく、とにかく大きなものごとにならないうちに、対応することを心掛けている。</p> <p>●数字には力があるが、こだわり過ぎないように色々な事を考えていって欲しい。</p> <p>○これまでの事を踏まえ考えて行きたい。これからもよろしくお願いします。</p> <p>○学校評価、学校運営計画とにもご承認と考えてよろしいか。</p> <p>特に異議なく、承認。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 新たなステージへの深化	「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コース再編に取り組む	将来構想検討委員会、カリキュラム検討委員会、専門コース委員会を開催。 普通科専門コースにおける、カリキュラム、LHR・総合の計画、行事等の精選など、教育活動の充実を図る。	将来構想検討委員会等の検討内容を運営委員会、職会、学校運営協議会に報告し、現在及び金剛高校の将来像に対する肯定的評価が多数を占めること。 教職員向け学校教育自己診断 「教育活動を振り返り改善に向けて取り組む」90%以上を維持する 【令和元年度 91.0%】	今年度は将構委やカリキュラム検討委員会において、ステップアッププランの改定、R4年度からのカリキュラムの改定、LHRの年間計画モデルや総合的な探究の時間のテーマ例などを提示することができた。しかし今年度はコロナ禍の影響で生徒も教職員も日々全力投球したので、「ゆとり」を持って教育活動を行うことが困難であり、それ程教職員はよく頑張ってくれた。 「教育活動を振り返り改善に向けて取り組む」90%以上を維持する 86.4% 【令和元年度 91.0%】(△)
2. 確かな学力と進路実現	ア わかりやすい授業づくり	ア. 授業改善サイクルの充実を図る。年2回の授業アンケートだけでなく、生徒との対話を通じて授業改善に努める。 授業改善研修の充実。 授業公開、各教科での研究授業の実施。 「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業改善。 教員間の授業交流による授業改善の促進。 教職員の「専門性」の向上「同僚性」の発揮を促進し、「ストレス」の少ない「働きやすい」「働きがいがある」職場づくりに取り組む	ア. 生徒向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」63%以上 【令和元年度 61.4%】 「学力を伸ばす工夫」65%以上 【令和元年度 67.5%】 「授業が静かで集中できる」68%以上 【令和元年度 66.5%】 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」65%以上【令和元年度 62.9%】 「授業改善に積極的」70%以上 【令和元年度 69.5%】 教職員向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」90%以上を維持する 【令和元年度 91.5%】 「学力を伸ばす工夫」90%以上を維持する 【令和元年度 97.8%】 「お互い協力し合う」80%以上 【令和元年度 79.2%】 学校全体のストレスチェックが基準値を越えない。105【令和元年度 111】	ア. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「わかりやすい授業」59.8% 【令和元年度 61.4%】(△) 「学力を伸ばす工夫」69.7% 【令和元年度 67.5%】(○) 「授業が静かで集中できる」77.2% 【令和元年度 66.5%】(◎) 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」65.2%【令和元年度 62.9%】(○) 「授業改善に積極的」73.8% 【令和元年度 69.5%】(○) <u>教職員向け学校教育自己診断結果</u> 「わかりやすい授業」92.8% 【令和元年度 91.5%】(○) 「学力を伸ばす工夫」92.8% 【令和元年度 97.8%】(○) 「お互い協力し合う」78.2% 【令和元年度 79.2%】(△) 学校全体のストレスチェックが基準値を越えない。108【令和元年度 111】(△) 【今後の課題】 コロナ禍において教職員はよく授業改善に努めた。今後も継続に努める。

府立金剛高等学校

<p>2. 確かな学力と進路実現</p>	<p>イ 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成</p> <p>ウ 地域と連携しての交流、体験学習学習成果の発信</p> <p>エ 進路に向けた意識の醸成</p>	<p>イ. 「主体的で対話的な深い学び」を意識した課題解決型・探究型の授業を実施し「思考力」「判断力」を養う。 「総合的な探究の時間」での発表や、行事の中での学びを通して、「表現力」「人と協働する力」を養う。 エリア・コースでの学習の充実を図り、「総合的な探究の時間」、LHR、学校行事を通じて「学びに向かう力」「人と協働する力」を育成する。</p> <p>ウ. 特色ある授業や取組みでの地域の学校、施設、団体との交流、体験を継続、推進する。 生徒の成長や学習成果を地域に発信する。 発達と保育 : 保育所での実習 保育音楽 : 保育所交流 進路指導部 : 幼稚園交流 社会福祉基礎 : 小学校の授業見学・交流 福祉施設との交流 手話・点字 : だいせん高等聴覚支援との交流 生活文化エリア : 保育所交流 幼稚園交流 地域コミュニケーションコース : 障がいのある人との交流</p> <p>エ. 各学年の進路指導部と学習指導部の連携を軸に生徒情報や進路課題を共有し、1年次から、進路を考えさせるキャリア教育に取り組み、進路に向けた意欲を育てる。</p>	<p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「系・コースの授業は将来の役に立つ」85%以上を維持する【令和元年度 85.4%】 「HRや「発見」などで、生き方や将来について機会がある」90%以上を維持する【令和元年度 90.1%】 芸術鑑賞アンケート 「芸術鑑賞を通じて、文化祭などでの表現力に生かすことができるか」70%以上を維持する【令和元年度 81.0%】</p> <p>ウ. 生徒向け学校教育自己診断「授業や部活動で他の学校や地域の人々に関わる機会」75%以上【令和元年度 74.1%】</p> <p>エ. 生徒向け学校教育自己診断 「進路に必要な情報や機会の提供」90%以上を維持する【令和元年度 91.4%】 「進学講習や校内模試等進路実現の取組み」80%以上を維持する【令和元年度 83.8%】 、「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」80%以上【令和元年度 77.1%】</p>	<p>イ. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「系・コースの授業は将来の役に立つ」88.9%【令和元年度 85.4%】(○) 「HRや「発見」などで、生き方や将来について機会がある」90.8%【令和元年度 90.1%】(○) 今年度コロナ禍により芸術鑑賞を実施しなかったが、9月末の文化祭での3年生の演劇は非常にレベルが高かったと高評価。生徒の力を引き出した教職員の指導力が大きな要因。(◎) 【今後の課題】 ピンチをチャンスに変えて行動できた意義は大きい。今後も生徒の持つポテンシャルを引き出したい。</p> <p>ウ. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「授業や部活動で他の学校や地域の人々に関わる機会」59.8%【令和元年度 74.1%】(△) 【今後の課題】 今年度はコロナ禍により、授業や部活動等、本校が大切にしてきた地域との交流や体験が実施できなかった。次年度はコロナ禍の状況を見ながら、できるところから復活させたい。</p> <p>エ. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「進路に必要な情報や機会の提供」92.4%【令和元年度 91.4%】(○) 「進学講習や校内模試等進路実現の取組み」81.9%【令和元年度 83.8%】(○) 、「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」82.4%【令和元年度 77.1%】(○) 【今後の課題】 将来展望を描き、進路実現するためキャリア教育をこれまで通り推進するとともに、講習に力を入れて、進路実現のための力を養う。</p>
<p>3. 豊かな人権感覚の醸成</p>	<p>ア 生徒相互の関わり、協働性の重視 自尊心や相互の信頼感を醸成する人権学習、総合学習、学校行事</p>	<p>ア. 新入生オリエンテーション(1年)、クラススタートアップ、個人面談、遠足に至る年度当初クラスづくりを通じて、安心感のある高校生活を支援する。 行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の関わりや協働性を育てる。</p> <p>イ. 生徒の実態に即し、当事者との出会いや体験等、生き方を考えさせる人権学習、総合学習を企画し、実施する。 校内教職員人権研修の更なる充実。校外人権研修への参加促進。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足している」80%以上を維持する【令和元年度 82.0%】 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラス」80%以上【令和元年度 78.9%】</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」85%以上を維持する【令和元年度 89.9%】 「社会の新しい課題を学ぶ機会」85%以上【令和元年度 81.5%】 人権意識調査(3年) a「人権に関心を持っている」、 b「自分を大切にする気持ちが高まった」、 c「人間関係の大切さを学んだ」 「差別的な言動を見聞きした時の態度」について d『差別を指摘し話し合う。伝える努力をする』 e『何もせずに黙っている』という5項目の1年からのa~dは増加、e減少を目標に取り組む</p>	<p>ア. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「金剛高校に満足している」85.0%【令和元年度 82.0%】(◎) 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラス」84.7%【令和元年度 78.9%】(○)</p> <p>イ. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u> 「人権問題の理解」89.5%【令和元年度 89.9%】(○) 「社会の新しい課題を学ぶ機会」80.1%【令和元年度 81.5%】(△) <u>人権意識調査結果</u>(3年) 「人権に関心を持っている」 3年次84.7%←1年次73.9%(○) 「自分を大切にする気持ちが高まった。」3年次77.5%←1年次74.7%(○) 「人間関係の大切さを学んだ。」 3年次92.7%←1年次95.4%(△) 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」 『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』 3年次41.9%←1年次49.7%(△) 『何もせずに黙っている。』 3年次15.2%←1年次17.0%(○) 【今後の課題】 人権についての関心は高まったが、自己自身や他者との関係の在り方、態度・行動につなげることが課題。</p>

府立金剛高等学校

4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実	<p>ア 生徒の実態把握ときめ細やかさや支援、指導</p> <p>イ 共生推進教室の教育内容の充実、ともに学びともに育つ教育の推進</p>	<p>ア. 生徒支援カード（1年生）の情報を学年会議、教育相談委員会で共有し、支援の必要な生徒の早期の発見、実態把握に努め、必要に応じた支援体制をつくる。</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会で生徒状況の経過観察を行い、学年と協議の上必要に応じてケース会議を開く。外部機関や専門家とも連携して、支援にあたる。共生推進教室の生徒についても、共生推進コーディネーターと密に連携し、必要に応じて適切な支援、ケース会議の開催を行う。たまがわ高等支援学校と連携して、共生推進教室の生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行う。</p> <p>ウ. 本校で学ぶすべての生徒に共生推進教室の意義を周知し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断「問題を見逃さず相談に応じてくれる」75%以上【令和元年度 72.8%】</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会のコンスタントな開催。その中で、配慮や支援が必要な生徒、同和地区出身生徒、外国にルーツを持つ生徒等の状況確認。支援が必要なケースに関しては校内関係部署及び外部機関との適切なケース会議の開催。</p> <p>ウ. 共生推進教室の生徒が安全で安心して学校生活を送る。不登校や長期欠席がなく、いじめなどの人権侵害事象がない。また、共生推進教室の生徒が、クラス活動、学校行事に積極的に参加し、周りの仲間と温かい関係を結ぶことができる。卒業時の就労先の開拓。</p>	<p>ア. <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u>「問題を見逃さず相談に応じてくれる」80.4%【令和元年度 72.8%】(◎) 【今後の課題】 本校の「よさ」を堅持できるよう、今後も専門性を高め、組織的に対応できるように努めたい。</p> <p>イ. 心理的な援助が必要な生徒は教育相談委員会、虐待やいじめへの対応は人推委や生指、その他、養護教諭や支援教育 Co も入り、担任及び学年団をサポートする形で支援の必要な生徒の情報共有及び支援の方針の確認をコンスタントに実施できた。(◎) 【今後の課題】 学校文化として教職員一人ひとりが丁寧な指導援助ができること。</p> <p>ウ. 共生推進教室の生徒の支援について、学年、教科、分掌等と連携を密にして、支援を行うことができた。共生3年生の就労について、3名とも就労先が決定することができた。(◎) 【今後の課題】 共生推進教室が徐々に根付きつつあり、今後も深化すること。</p>
5. 規範意識の醸成	<p>ア 基本的生活習慣の確立</p> <p>イ 部活動の促進及び生徒会活動の活性化</p>	<p>ア. 生徒指導部と学年が一体となって遅刻、頭髪、服装、原付等の指導を行う。あいさつ、特に朝のあいさつの励行を全教員で推進する。</p> <p>イ. さまざまな機会を通じて、新入生への部活動への参加を積極的に推進するとともに生徒会執行部を中心に生徒会活動を活性化させる。学年、部活動におけるリーダー育成を意識した関わりの促進。</p>	<p>ア. 年間遅刻者 600 件以下【令和元年度 561 件】を目標に取り組む 生徒向け学校教育自己診断「学校生活全体の指導は適切か」75%以上を維持する【令和元年度 75.1%】 「遅刻頭髪、服装、原付等の指導は適切か」65%以上【令和元年度 60.6%】</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断「学校は部活動に積極的」80%以上【令和元年度 79.3%】 「生徒会・委員会活動は活発」75%以上【令和元年度 72.8%】</p>	<p>ア. 年間遅刻者 690 件(3/15)【令和元年度 561 件】(△) <u>生徒向け学校教育自己診断結果</u>「学校生活全体の指導は適切か」78.4%【令和元年度 75.1%】(○) 「遅刻頭髪、服装、原付等の指導は適切か」64.0【令和元年度 60.6%】(△) 【今後の課題】 一人ひとりの生徒の現在及び将来の最善の利益を中心に据えた生徒指導が本校ではできている。今後とも継続。</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断「学校は部活動に積極的」81.3%【令和元年度 79.3%】(○) 「生徒会・委員会活動は活発」76.4%【令和元年度 72.8%】(○) 【今後の課題】 生徒の自主性・主体性の育成を今後とも推進する。</p>